

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 09030082

政策目標	1 はつらつ・雄武～地域産業の振興～	会計区分	1 一般会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	3 水産業の振興	事業優先度	A	
単位施策	1 水産資源の保護・増大	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)	
事業名	ほたて被害緊急支援事業①	見直し年度		
事業期間	平成27年度～平成29年度	担当課	9 産業振興課	
事業主体	雄武漁業協同組合	関係課	#N/A	
事業指標	平成29年度ほたて漁獲量		#N/A	
事業目標	15,000トン	ハード/ソフト 事業区分	2 ソフト事業	
住民参加	無	関係例規・法令名		
住民協働		関係個別計画名		

全 体 計 画 事 業 内 容		平成 25 年度 事 業 内 容	平成 26 年度 事 業 内 容	平成 27 年度 事 業 内 容	平成 28 年度 事 業 内 容	平成 29 年度 事 業 内 容
計 画 内 容	平成26年12月以降の度重なる大時化によるほたて貝の被害に伴い雄武漁協が行う各種事業に対し、経営安定化を目的に支援を行う。 【ほたて稚貝緊急手当事業資金貸付事業】 平成29年度本操業漁場へほたて稚貝を足し蒔きし、被害を最小限に止める漁協事業に対し、事業費の一部の貸付を行う。 ・平成27年度 5億円(無利息) 【ほたて漁場被害底質等改善事業】 漁場の回復を目的に漁場耕耘及びヒトデ駆除を行う事業に対し、補助を行う。 ・平成27～29年度 総事業費 299,588千円			【ほたて稚貝緊急手当事業資金貸付事業】 ・貸付金 500,000千円 【ほたて漁場被害底質等改善事業】 ●漁場耕耘 沢木海域 ●ヒトデ駆除 幌内・魚田・雄武海域 ・総事業費 115,029千円 ・補助対象経費 110,197千円 ・補助率 1/2 ・補助金額 55,098千円	【ほたて漁場被害底質等改善事業】 ●漁場耕耘 幌内海域 ●ヒトデ駆除 ※実施なし ・総事業費 73,804千円 ・補助対象経費 70,842千円 ・補助率 1/2 ・補助金額 35,421千円	【ほたて漁場被害底質等改善事業】 ●漁場耕耘 魚田海域 ●ヒトデ駆除 ※実施なし ・総事業費 73,583千円 ・補助対象経費 70,608千円 ・補助率 1/2 ・補助金額 55,304千円
計 画 事 業 費	事業費(千円)	645,823	0	555,098	35,421	55,304
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	20,000				20,000
	地方債	0				
	その他	0				
	一般財源	625,823		555,098	35,421	35,304
実 績 事 業 費	事業費(千円)	657,019	0	563,194	45,671	48,154
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	76,200		30,000	20,500	25,700
	地方債	0				
	その他	0				
	一般財源	580,819		533,194	25,171	22,454
関 連 事 項	特定財源の名称 (基金対応～H29) 【評価・実績】	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等) ほたて稚貝足し撒き 1億6,100万粒 漁場耕耘 沢木海域 ヒトデ駆除 幌内・魚田・雄武海域	(実施内容等) 漁場耕耘 幌内海域	(実施内容等) 漁場耕耘 魚田海域
		※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果 A-継続/内容の見直し・変更	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-終了
	前期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値		101%	129%	87%
	第6期計画への継続 (継続有り)	年度達成率	#DIV/0!	87%	94%	102%
		全体達成率	0%	0%		
		備考欄				

事業名	ほたて被害緊急支援事業①	評価者 管理職 職氏名	産業振興課長	横田 和幸
		評価者 作成者 職氏名	水産係長	高田 勉

様式1
平成29年度実施
平成30年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	漁業者	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	早期復旧に向けた取組活動の海域数	
【抱える課題やニーズは】	平成26年度の低気圧による大時化の影響により、ほたて貝が大幅に減産となった。	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	ほたて漁場の早期復旧	① 漁場耕耘海域数	目標年度 平成29年度	
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	ほたて漁獲量の回復による漁業経営の安定化を図る。		目標値 1 海域	
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	事業実施団体に対する補助金の支出	ほたて漁場の底質改善を目的とした耕耘事業に対し、補助金を支出	実績値 1 海域	
			達成度 100.0 %	
			②	目標年度 年度
			目標値 海域	
			実績値 海域	
			達成度 #DIV/0! %	

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	ほたて漁業の振興は、地域経済に大きな影響を及ぼすものであり、漁場の早期復旧に対する支援は、町の活性化を図るうえでも必要な事業である。
必要/概ね必要/課題あり		<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	計画に沿った事業が進められ、漁場耕耘により畝状になった底質が改善された。
有効/概ね有効/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	漁業活動に支障が出ることがなく、効率的に事業が進められ、また、北海道の交付金を活用することにより、自己財源も抑えられている。
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員削減 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input checked="" type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	災害に伴う緊急的な支援であるとともに、ほたて漁業の安定化のための支援であり、公平であると判断する。
公平/概ね公平/公平でない	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある <input type="checkbox"/> 受益者負担がない <input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る <input checked="" type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
時化により畝状に荒れた漁場の底質改善を行うことにより、ほたて貝の生息環境の正常化が図られた。		
今後の展開方向 (Action)	↓	↓
終了		
3か年のほたて漁場底質改善により一定の成果を得られたとともに、計画どおり完了したことから、本事業は終了することとする。		

※展開方向の区分

○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
○終了 ○休止 ○廃止